

かぶ くり ぬま 蕪栗沼遊水地事業

受賞機関 宮城県迫川総合開発建設事務所

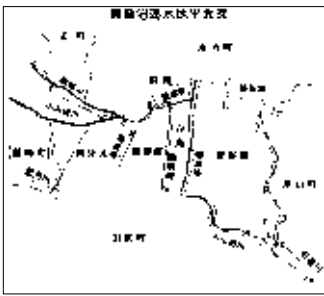
はじめに

蕪栗沼遊水地は、宮城県の北部、ラムサール条約登録湿地「伊豆沼」の南約8kmに位置し、蕪栗沼・白鳥・四分区・野谷地・沼崎の5地区からなり、総湛水容量は15,800千 m^3 である。

蕪栗沼に合流している主な河川は、小山田川・萱刈川・瀬峰川で、蕪栗沼には665 m^3/s の洪水流量となるが、遊水地点において425 m^3/s の洪水調節を行い、旧迫川・旧北上川に流下させる計画である。

事業の概要

当該遊水地は、大規模事業として昭和45年に着手し、遊水地補償の交渉を行うと共に、流入河川の築



(各遊水地のあらし)

遊水地	湛水面積	湛水量	越流堤幅	圍堤長
蕪栗沼	1.07 km^2	3,400千 m^3	-	-
白鳥	0.57 km^2	1,900千 m^3	1,400m	750m
四分区	1.06 km^2	3,100千 m^3	400m	4,150m
野谷地	2.97 km^2	6,800千 m^3	350m	7,300m
沼崎	0.15 km^2	600千 m^3	80m	1,850m

堤、各越流堤や圍堤・排水機場等の整備を進め、平成9年度で全ての補償が解決し、施設整備についても平成12年度で完了している。

事業の特徴

遊水地の一つ蕪栗沼は、面積約1 km^2 の往古は北上川の自然遊水地でもあり、マコモ・ヨシ等が生い茂る自然度を有する湿地となっており、最大で4万羽のガン類が確認されている全国でも有数の渡り鳥の飛来地になっている。

当初、遊水地機能の確保から沼の全面掘削を計画したが、蕪栗沼とそれをとりまく自然環境への配慮に対応するため全面的に見直しを行うと共に、地元住民・各分野の専門家で構成する「蕪栗沼遊水地懇談会」を設立し、遊水地の保全・管理に係わる様々な取り組みを行ってきた。

その中で蕪栗沼周辺の「遊水地機能の維持と豊かな自然環境の保全」を実現するための「蕪栗沼環境管理基本計画」が策定され、次の4つの基本方針が



立案された。

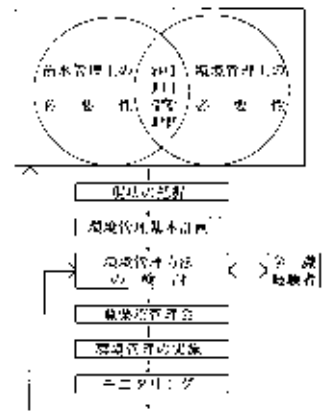
蕪栗沼のもつ多様な機能と役割を考慮した遊水地機能の維持

貴重かつ多様な野生生物の生息・生育空間としての河川環境の保全

自然環境とのふれあいの場としての利用・創造

蕪栗沼を軸として、住民と行政が一体となったかわり

さらに、基本方針を踏まえた河川環境管理対策を位置づけると共に、堆積土砂や樹木等の管理についての管理方針を定め、実施手順に基づいた管理を行うこととした。



また、白鳥地区については、環境復元・利用ゾーンとして位置づけ、新たな動植物の生息・生育空間を創出するとともに、平成11年に登録された「水辺の楽校プロジェクト」事業などを通じて、子供達の環境教育としての場が提供できるよう、関係機関との連携により利用計画を策定中である。

今後、蕪栗沼遊水地については、地元住民で構成する「蕪栗沼環境管理会」の運営により環境管理基本計画を適正に執行すると共に、蕪栗沼周辺で活発に環境保護活動を行っているNPO法人「蕪栗ぬまっこくらぶ」との連携により、地域の特性を十分に活かし、地元住民のニーズを的確にとらえた河川管理を目指すこととしている。

受賞賛助会員

石川島播磨重工業(株)東北支社、(株)荏原製作所東北支店、(株)建設技術研究所東北支社、東亜道路工業(株)仙台支店、西田鉄工(株)仙台営業所、三菱重工業(株)東北支社